

平成30年度 第1回 小野申人といきいきトーク

と き	平成31年1月10日（木） 19時～20時30分
と ころ	府中市立上下北小学校
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	学校運営協議会委員13名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、石川教育部長、門田学校教育課長

《子育て・教育(CS：コミュニティ・スクール)》

- ・ 子どもが少なくなってきた。保護者としてどうやって学校を支えていけるか皆で協議している。
- ・ 地域の小学生、中学生、高校生とその保護者を連れて県内企業を回った。広島にも多くの企業があると教えている。子どもらが将来地域から出て行かない、また、帰ってくる一助になるのではと期待。この取り組みを学校と連携してできればと思う。
- ・ 敬老会に子どもらが来るとお年寄りは大変喜ぶ。子どもらは、お年寄りの喜ぶ姿を見て感化され、自身の存在感を感じている。また、大勢の前で発表などを行うことで自信が付いている。
- ・ 地区の取り組みができているところは、子どもの気持ちが育っている。地域の環境が子どもらを伸ばすと実感。
- ・ 翁山ツリーの活動で、中学校の文化祭において、昨年の高校生のツリーの取り組みに憧れて、「地域貢献」「上下で就職」とか、「上下高校に行きたい」「高校は違うがいつか必ず上下に帰ってくる」という声が出ており、よい効果があった。
- ・ ひなまつりや夢ツリーなどの取り組みを学校の教材にしてはどうか。
- ・ 本来は、地域の者が学校に入り込んでいく方がよいのだろうが、なかなかそこまでできないので、先生方から「こんな困ったことがある」と知らせてほしい。家庭科のミッション作業など地域の女性会や趣味のグループなどで対応できることがある。
- ・ この地域は、学校に協力したいという気持ちが強い。
- ・ コミュニティ・スクール全国大会といいながら、その言葉を知らない人がまだ大勢いる。町内会組織を利用すれば、周知も早いと思う。教育委員会が元締めとなって進めていただきたい。
- ・ CSは府中明郷学園が進んでいると感じる。アントレプレナーシップなど、府中明郷学園の取り組みを情報提供いただきたい。

府中明郷学園は、5年前からCSに取り組まれていることもあり、一日の長があると感じる方もいるかと思う。ただ、今年の広報ふちゅう（平成31年）1月1日号での対談でも出た意見だが、府中明郷学園の学校運営協議会会長も南小学校の取り組みに新たな気づきがあったように、それぞれの取り組みを持ち寄り、情報交換して連携しあえればと思う。

### 《地域づくり》

- ・ 町内に家を持っているが今後の管理等どうすればよいか思案している。
- ・ 人口減が顕著で先行きに不安を感じている。中山間地域が疲弊していることに心を痛めている。
- ・ ネットで田舎のちょっとしたことを配信しており、上下が「普通の田舎とは違う」と感じてもらえている。
- ・ 「子どもがやることなら何でも支える」という地域と感じている。
- ・ 上下から移動しようと思うと車代が必要になる。府中地域への見学など行う場合、配慮がほしい。
- ・ 府中市街地は循環バスがあつてよいと思う。上下地域にはおたっしや号があるが、上下町中心部の者は乗れないためタクシーを乗り合わせたりしている。上下町中心部の者が買い物難民になりかけている。上下町の周辺部には交通手段があるが、中心部になるとないため、町の中心部を走るバスがほしい。

### 《防災》

- ・ 平成30年7月豪雨では、大変なことになった。交通網の整備について何か手立てはないか
- ・ 坂根峠にトンネルを。中腹辺りからならトンネルでも費用は抑えられるのではないか。2路線あれば災害にも備えられると思う。

平成30年7月豪雨では、通常迂回路となる路線がほぼ全て不通になるという想定外の事態であった。「新しい路線をすぐに」とは簡単にいかないのが実情。今ある路線を強化していく必要がある

市

- ・ 防災に関して、ケーブルテレビは府中市街地のみのため、上下地域にも配信できないか。インターネットなどは情報の的確性が分からず、また、老人が検索するのも困難である。

情報発信には色々な手段がある。現在は、NHKや民放のテレビ放送の字幕スーパー、防災メール、エリアメールなどで発信。メール類は、配信地域や文言などを考えて発信している。

告知端末という手段も考えられるし、屋外では防災無線も必要である。色々な伝える手段を用意しておく必要がある。

市ホームページへの情報の上げ方は、再考する。

市

### 《観光、イベント、町おこし》

- ・ 観光と祭りを一体で行っている。ただ、「上下の目玉は？」と聞かれると何があるだろうかと思う。外国人に対しては、寺社や剣道などをPRできるが、新しく目玉を作

るのは大変なので「今まで大事にしてきたものを磨きたい」という考え方が大切だと思う、再発見、掘り起こしが必要だと思う。今ある資源を皆で考え、子どもらに勉強して伝える意識が必要。子どもらに残せるものは何か。

先日行われた伝建地区の説明会には、該当者のほとんどが出席され、賛成され、若い人の組織もできたとも聞いた。観光資源も大切だが、「人も資源である」ことを認識。

行政では、角倉邸や翁座の改修を進めるが、大切なのはこれをどう活用するかで、それは地元の方をお願いすることになる。

翁座には歌舞伎に年1回程度来ていただき、それ以外は、地元の方の劇や神楽、落語、演奏などの発表の場にしてもらうことも一つの案である。施設の管理は市がするが、活用は地域に関わってもらわなければならない。楽しみながら考えてもらいたい。

市

- ・ 感じる事が大切。何もないことを楽しむ心を発信している。
- ・ 神楽が絶滅しそうである。どの団体も人が減っている。親の代で途切れたものを復活させたが、維持ができない。町全体で合流を考えているが厳しい状況である。これが翁座でできればいいと思う
- ・ 矢野温泉はどうにかならないか。ストレス社会の現代だからこそ、温泉のように落ち着く場が必要。

矢野温泉については、対策を考えているところである。

旧府中の者の目には、「白壁の町並み」が大変よいもののように映る。これは、単に“町並み”としての観光資源だけでなく、“もてなす地域の方”を含んでいる。地域の方が来客を受け入れたから喜ばれているのであり、大切なことだと思う。観光資源は十分にある。

市

《最後に》

学校も地域に、地域も学校にお互い声を出していただければと思う。

上下地域だと農業についても意見があると思うので、次は自身だけでなく周囲の人の意見でも結構なので言ってほしい。

市